
友達から親友へ・・・

ワタマー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友達から親友へ・・・

【Nコード】

N0305A

【作者名】

ワタマー

【あらすじ】

今まで本当の『友達』や『親友』が出来なかった園子。いつも、鈴木財閥のご令嬢、としか見られなかった・・・そんな園子にも『親友』と呼べる人ができるのだろうか？

私が中学を選んだ理由は、大きな理由からじゃない。単に、制服が他のよりも幾分か可愛かっただけ。パパは、何処でも好きなどころを選べばいいって言うってくれたけど、私は私立よりも都立を選んだ。普通の『オンナノコ』して、色々な人と会いたかった。ただ、それだけだった。本当に。

あの子、鈴木財閥のご令嬢ですってなら、仲良くしておいて損はないな

そんな言葉、うんざりするほど聞いてきた。何処に行っても、影から聞こえるのはそんな言葉だけ。

誰も、私を私として見てくれなかった。パパの会社の娘、としか見てくれなかった。

本当の友達って呼べる人なんて、私の周りには全然いなかった。本当の友達なんて、どんなものかすら知らなかった。

だから友達が出来るとなんて全然思わなかった。

「ねえ、何ていう名前？」

「鈴木園子よ」

「私は毛利蘭。これからは同じクラスの仲間だね。よろしくね」
相手はにこつと笑った。

その表裏のない可愛い笑顔に、心から惹かれた。
何時もドラマとかで、くっさいセリフってバカにしてたんだけど、
本当に惹かれる人が出来た私は、ちょっとだけ変わった気がする。

「私の事は蘭って呼んでね。

ねえ、園子って呼んでいい？」

園子さん

園子お嬢様

初めて出来た友達は、私の事をそう呼ばなかった。

『園子』って、名前で呼んでくれた。

それだけで、本当にうれしかった。

「新一、こっちは新しい友達の鈴木園子って言うの。

園子、こいつは幼馴染の工藤新一って言うの」

「よろしくね、工藤くん」

「新一でいいよ、園子。クラス違うけどよろしくな」

そう言って少し意地悪そうに笑った彼。

表面だけの笑顔じゃないってすぐわかる。

友達って、こんな感じなんだ。

小学生や幼稚園に通ってるガキだってわかってる、そんな単純な事。

私は中学生になって、初めて知った。

「ねえ、園子。高校は何処に行くの？」

「実はさあ、まだ決まってないの」

「なら帝丹高校にしない？」

「ちょっとレベル高いけど、あそこの制服可愛いよ」

「うわ、内申やバイからなあ……」

「一緒にがんばろうよ！！新一もあそこ狙ってるって言ってたし」

「それってもしかして、新一さんと一緒にいたいからって理由？」

「ち、違っわよ……」

「何はともあれ、3人でがんばろっかあ」

「うん！！がんばろう！！」

行く高校の誘いをかけてきたのは、蘭の方からだった。

動機はかなり中途半端なものだったけど、合格する。

そこで私は自分の間違いに気付く。

蘭は友達じゃない、と。

これが親友なんだ、と初めて実感する。

中学、高校と、私はちょっとだけ生活を変えてみていた。
そこで気付いた事はたくさんあった。

その中の1つは、自分から手を伸ばさないと何にも手は届かないって事。

蘭は知らない学校から来た私に声をかけてくれた。

『友達』を知らなくて、他のクラスメイトに声をかけられなかった私に。

私は、蘭と同じ……とまではいかなかったけど、色々な人に声をかけてみる。

相手は、私が思っていたよりもすんなりと、私を受け入れてくれた。

……ちょっと悪い言い方だけどね。

ほんのちょっとだけでいいから、背伸びをしてみるの。

高すぎて届かなかった小さな宝石箱に、ちょっとだけ手が届いた気がするから。

(後書き)

#作者より#

こんにちは^^

園子ちゃん&蘭ちゃんのお話はあまり書いたことがないんですけど・・・

どうだったでしょうか？

感想、是非聞かせてください

皆さんにも『親友』と呼べる人がいますか？^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0305a/>

友達から親友へ・・・

2010年10月8日13時42分発行